

第27回紙芝居サミット「育ちあう紙芝居の輪～国をこえて・地域をこえて～」 及び韓国紙芝居文化研究会の招聘と交流



実施者：第27回紙芝居サミット実行委員会

社会や地域の課題

幼保、小・中・高・大学・社会教育・老人介護・地域のイベント等で、紙芝居を活動母体として、多様に実演している団体、紙芝居を制作して様々なメッセージを届けている個人やグループ、大学関係が集い活動成果を発表した。今回は初めて、韓国において紙芝居を研究し広める団体の参加があり、紙芝居の学術と情報・教育として、地域から国を超え、本物の文化として繋がり育ちあう場づくりを広げていくことが課題である。

取組概要及び成果

基調講演「わらべうたと紙芝居」で、演じ手と観客が歌うことのできる紙芝居は、今、失われつつある「わらべうた」を子育てに取り入れる意義を、講師紙芝居作家長野ヒデ子氏から発表された。紙芝居の多様な表現の中で、歌でコミュニケーションを取りながら演じる紙芝居の特性を広めることは、子育て支援でかかわる参加者にとって実演の学びと作品を知る好機となった。

各地域で紙芝居を演じている“学校・図書館ボランティア”やそれぞれの“市町村イベント”にて町おこしなどでの参加団体、紙芝居を広めようとしている韓国の大学の先生方、また埼玉大学で地域の歴史や伝承を紙芝居作成・実演し、ウクライナの学生と日本の昔話紙芝居を使った交流など、それぞれが活動について発表を行った。その結果、紙芝居は地域の伝承や環境問題、その歴史や個人の戦争体験等を、大切に伝えることができることを確信した。同時に、世界と交流し友好できる日本文化として広める大切さを、参加者一同で認識しあえた。

また、各地域の活動の報告発表は、どのように会を運営するのか、実演の場づくりなどの知恵を共有することができ、各参加者の交流とともに、有意義なものとなった。